



	学習内容	学習活動	指導上の留意点	
導入	障がい者の状況を体験する。	指示①【パラサポ】i enjoy! movies - highlight2016- 映像を見せて、本時の感想を書かせる。	・感想を聞く。	
		指示② 1. 目隠しをして言葉の指示だけでストレッチを行う。 2. 片腕だけで靴紐を結ぶ。 3. 指が使えない状況で文字を書く。	・事前に連絡してバンダナやタオルなど目隠しをできるもの、物あてに使用できるものを準備させる。	
		活動① それぞれの活動（障がい者、健常者）を通して、制限された状況や言葉の選択など具体的に苦労した内容を話し合い発表する。（ワークシート）		
	多様性とこれからの日本について	説明① 障がい者の状況と気持ちを理解していくことが重要。 多様性を考え、障がい者以外に目を向けるとこれからの日本は・・・ → ・訪日外国人の増加 ・外国人労働者の増加 ・少子高齢化 ※人種・性別・性的志向・言語・宗教・障がいの有無など、今の自分と異なった特徴を持つ人たちと共に社会を形成していくことが求められている。		
		発問① パラリンピックの種目にはどんなものがあり、どのような障がいのある人たちが参加しているか。	・できるだけ多くの種目を答えさせる。陸上や水泳などは障がいの種類や用具を説明し、ゴールポールやボッチャなど馴染みのない種目の説明に時間を割く。	
		説明① 東京パラリンピックでは22競技が実施される。肢体不自由、視覚障がい、知的障がいの障がい者を対象とした国際競技大会。 陸上のクラス分け 視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、脳原性麻痺、機能障がいの中で障がいの程度などをさらに分け、クラスが分かれていく。		
	パラリンピックの背景を理解させる。	発問② パラスポーツは何のためにルールが変更されているのか。	オリンピックとの違いなどを考えさせながらグループで話し合い発表する。（ワークシート）	
	活動② グループ内で話し合い、発表する。	・背もたれに背中をつけたままの動きとそうでないときを比較する。		

展開	説明③ 車いすバスケットボールの例 ・障がいの程度を点数化することで、さまざまな障がいのある人たちが一緒にプレイすることができる。	
	発問③ パラリンピックはどのような経緯で始まったのか。	
	説明④ IPC（国際パラリンピック委員会）の目的 パラスポーツを通じてインクルーシブな社会（共生社会）を創出すること。 共生社会とは これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。 それは誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。	・共生社会に繋がっていかねばならないことを強調する。（ワークシート）
	発問④ ・それぞれの障がい者と一緒にスポーツをする場合、どんな競技をどんなルールにするとみんなで楽しむことができるか。 1. 筋力低下（跳ぶ、走るなどができない） 2. 下肢欠損（車いす利用者） 3. 視覚障がい者（全盲） 4. 両腕欠損（下半身は健常） ※サッカー、ラグビー、バスケットボール、バレーボール、テニスなどを例に出しながら競技を選び考案する。	・できるだけ多く書けるように具体的な例を出しながら進め、共生社会を理解させる。
	活動③ グループ内で話し合い、ルールの工夫や方法について発表する。	
まとめ	発問⑤ なぜパラリンピックが行われているのか。	
	説明⑤ パラスポーツ 障がい者で行うスポーツではなく 障がい者と共に楽しむことができるスポーツ →共生社会の始まり	※ワークシート

名前

パラリンピックと共生社会

1. それぞれの体験を通して、具体的にどのようなことが不便だったか、補助者にはどのようなことをしてほしいかを記入してください。

障がい者

補助者

2. 何のためにルールが変更されているのですか。

3. 共生社会の実現に向けて、それぞれの障がい者と一緒にスポーツをする場合、どんな競技をどんなルールにするとみんなで楽しむことができますか。(すでに行われているパラスポーツはできる限り避けてください。)

4. なぜパラリンピックが行われるのですか。

5. オリンピック・パラリンピックの授業について思ったこと、考えたことなど感想を記入してください。